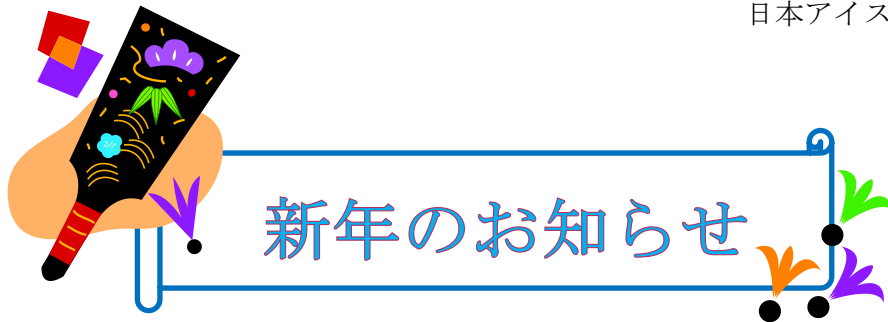


2014/01/22

認定講師

ジェルマスター認定各位

日本アイスフラワーアカデミー  
事務局



寒いですねえ。今年は特に寒さが厳しく感じます。皆様の体調はいかがでしょう。



2009年に特許を申請していた「観賞用透明ブロック及びその製造方法」（ジェルボックス）が昨年の12月27日に査定を受け登録されました。

「特許第5442342号」です。

日本はもちろんのこと世界でも珍しいアイスフラワーとアクリルケースそれにジェルのコラボレーション（ジェルボックス）技術が正式に認められた瞬間です。

これによって他社の追随は許しません。日本アイスフラワーアカデミーだけの特別な商材であり製造技術となった訳です。

販売は勿論のこと各教室は誇りを持って生徒さんの獲得に励みましょう。

「ジェルボックスは日本アイスフラワーアカデミーが特許を取得した独自の商品なんです」と、他商品との差別化を大いに宣伝しましょう。」

## 商標登録について



ジェルボックス 「登録第 5321759」  
ジェルフラワーボックス 「登録第 5344938」

の商標権はすでに取得済みですので、これらも他社が無断で類似した商標を使うことは出来ませんのでご安心ください。

### ★制作技術の Q&A

#### Q、中板の閉め方

ゆっくり、ゆっくりと時間をかけて制作をしてこれで完璧！と思って最後に中板を閉めたら大きな気泡が入って全てが台無しに…。

よくあることです。  
コツを覚えましょう。

仕上げ直前のジェル層はフランジの下 5~6 mmで止めます。ジェル温度は冬場で 80~83℃ですが 80℃を下回ってももちろん結構です。

- ・最終仕上げのジェル温度は冬場で 92℃。利き手でジェルを投入しながらもう一方の手でボックスを左右に揺らして均等にフランジの下へジェルを流し込みます。
- ・テーブルはおおよそ平衡ではありませんので揺らしてジェルを平均化させましょう。
- ・ジェルの量的目安は表面張力でフランジよりこぼれない程度に盛り上がった状態がベスト。
- ・最終のジェルを投入したら素早く気泡やフランジ下の空気溜りを手直しします。
- ・手直しはカニスプーンを温めてフランジ下へ軌道をつくってジェルを流し込みます。
- ・手直しが終わったらフランジの角から対角線に中板を入れていきます。
- ・中板は両面をジェルクリアーで十分に処理しておきます。失敗をしたときにスムーズに中板が取り外せるためです。
- ・中板を入れたら少し熱いですがフランジと中板の隙間を指で感じながら押し込んでいきます。
- ・中板を止める高さはフランジより 1 mmほど上がいいでしょう。(中板の厚み半分程度) ジェルの温度が下がると同時に収縮してフランジと同じ高さになります。

#### 事例

「中板を入れたらジェルとの間に大きな空気が入ってしまった」

- ・まずは落ち着きましょう。ゆっくりと深呼吸をして高ぶった気を静めてから手直しに入ります。
- ・方法は 2 つ。すぐ手直しに入るか、後でゆっくりやるかです。
- ・おすすめは後でゆっくり手直しすることです。

- ・どうしても時間が無い（試験などで）場合は、手早く中板を空気箇所まで開き（ジェルも一緒についてくるが）温めたカニスプーンで空気箇所周りのジェルを溶かしながら空気を追い出します。
- ・それでも直らない場合は中板に付いているおおよそのジェルを手で取り除き（綺麗に拭かなくてもよい）92℃のジェルを再度投入します。
- ・ジェルは溢れ出ますが動揺せず冷静に中板を入れていきましょう。
- ・これでほとんどの場合は処理できます。

※究極の対処法は中板を一枚余分に用意をしておき素早く新しいものと替えることです（試験で使用しても可）

#### 「中板を入れた後の拭き上げ処理」

- ・中板を入れて10分後くらいに周囲に溢れ出たジェルをピンセットで取り除きます。
- ・フレンジ部分はジェルクリアーで処理しペーパータオルで拭き取ります。
- ・中板はペーパータオルを使うと拭き取れずにジェルが潰れてしまいますので、ジェルクリアーを一枚空気にさらしてアルコール分を飛ばして拭けば綺麗に取れます。是非お試しください。

#### ★今月の花



スプレーカーネーション  
フレア



ミニローズ



小花

ナタリー

※その他のお花の在庫は本部にお問い合わせください。

